

テーマ:

自らが植えた苗の栽培～収穫を通して 様々な「楽しむ」を体験する

青森県
隆親保育園
太田 加奈子 先生
佐藤 沙知 先生
佐山 孝行 先生

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

100円ショップのカラフルなバケツを使って“個性豊かな栽培用の鉢”を製作！
栽培モチベーションが高まる

「凜々子」活用のポイント②

収穫したトマトを使ったクッキング活動と
家庭へ調理用トマト紹介・調理促進し
子どもたちの苦手な野菜も克服！

活動のねらい



- 一人一本の苗を育て、楽しく生長を見守る。
- 収穫したトマトは各家庭に持ち帰り、親子での楽しい会話のきっかけを作る。
- 植物にも命があり、お友達の苗との生長の違いを知る。
- 収穫したトマトを使ってクッキングを楽しむ。

活動の概要と流れ

対象学年：4、5歳児（25名）

実践期間：5～10月

時期	学習活動
5月14～16日	・プラスチックバケツに絵を描いて、栽培用の鉢を製作。
5月17日	・自分で鉢に土を入れ、「凜々子」の苗を植える。
随時	・毎日水やりをする。 ・保護者に向けて、食育活動の一つとして栽培のようすを掲示板に掲示する。
6月下旬～	・灰色カビ病が発生。近隣の農家の方にアドバイスをもらい、薬剤散布する。
7月中旬～	・尻腐れ症が発生。苦土石灰をまく。
8月中旬～	・収穫。加熱調理用のトマトであることを保護者に伝えて各家庭に持ち帰り、クッキングを促す。
9月6日	・収穫したトマトを使って、4歳児クッキング活動。ピザトースト作り。
10月10日	・収穫したトマトと一部冷凍保存しておいたトマトを使って、5歳児クッキング活動。オムライス作り。
1月18日	・保育参観で、これまでの活動をふり返り、保護者に活動の成果を発表する。



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

100円ショップで購入したバケツにお絵描きしながら栽培する自覚が芽生える！

昨年までは近隣の畑を借りてクラス毎に野菜を育てていたが、今年はたくさんの「凜々子」の苗が届いたことから、一人一本ずつ園の周辺で鉢で栽培することにした。ガイドブックに記載された苗1本につき土10Lが入る鉢を検討した結果、「バケツで栽培しよう」ということになり、100円ショップで4色のカラフルな12Lバケツを購入、水が抜けるようにハンダゴテを使って底に20ヶ所程穴をあけた。そこに子どもたちが油性マジックで好きな絵を描いて各自の栽培用バケツが完成、この作業を通して、子どもたちに「自分のトマトを育てるんだ」という自覚が芽生えた。

定植の際、子どもたちは小さな苗を土に植えると、栽培への期待が自然と溢れ出し、全身を使って「大きくなあれ！」の大合唱となり、これが栽培期間中の“おまじない”になった。



受賞理由



カラフルな100円ショップのバケツを応用した栽培活動は、スタート時点から子どもたちの栽培意欲がMAXに！土はたっぷり入るし、鉢が並んでいる姿を見るだけでも、栽培が楽しくなりそうだね！クッキング活動では、子どもたちが大好きなピザとオムライスで、「自分で作った」達成感をしっかり感じられるように、材料や作業工程が見える工夫もされていて、子どもたちが“楽しく”取り組めるアイデア満載の実践でした。

取っ手が付いたバケツは持ち運びしやすく、日当たりのよい場所や、雨が当たらない屋根の下へと、天気を見ながら子どもにも移動させることができた。

日々の遊びの中で観察を続け、植物の生長や「いのち」を体感

4歳児は、園庭で遊ぶ時に必ず自分のトマトを探し出して生長を確認していた。トマトが育つためには水と光が大切であることを、自分の目で見ることで理解していった。天候が悪い日が続くと、「今日は雨だからお日様が出ないね」「雨がいっぱい降ってトマトが可哀そう」等、トマトについて考える日が増え、命を育てているという自覚も育っていった。

トマトなどの野菜が苦手な子どもも多いが、収穫したトマトを持って「僕（私）のトマトだ！」と喜び、クッキングにも楽しんで取り組むことができた。また、収穫したトマトを各家庭に持ち帰ったことで、「家でも苦手なトマトが食べられた。」と保護者にも喜ばれた。調理用トマトを知らない保護者も多く、園と家庭、家庭間で調理についての会話が増えた。



トラブルを通して、命の重みや食の有難さを実感する

5歳児は、より親近感を持って育てられるよう、全員で話し合っ「凜々子」に『りりととちゃん』と名付けた。バケツ製作を通して自分の『りりととちゃん』を大切に育てよう、上手く育つといいな、と興味が増したようだった。栽培過程では、花が咲き、実が付き、その実が病気になったり、苦土石灰をまいたり、多くの事を自分の目で見て、体験したことで、必ずしも栽培が成功するものではなく、生き物には命があり、自然の力と多くの人の手が加わって、ようやく収穫できるということを、理解することができた。

先生から一言！実践を通して

今まで育てていたミニトマトと違って、植えてから調理までの長いスパンで活動できたのが良かったです。病気になってから復活するまでは、子どもたちの活動意欲も下がってしまいましたが、周囲の協力と子どもたちの「大きくなあれ」のおまじないで無事復活し、最後のクッキングまで取り組むことができました。

保育参観では活動のまとめを一人ずつ発表し、保護者にも子どもたちの成長した姿を伝えることができて良かったです。